

成果の説明書

(氏名) 中村 彰良	(学部) 経済学部
1 重要事項	
<p>研究</p> <p>最近数年間注目している東芝問題では、組織風土の問題が大きな要因として存在していることは間違いのないと思われる。一方、粉飾の問題が明らかになる以前の段階で、内部監査で、問題点が指摘されていた事項もいくつかあることが、第三者委員会の調査報告書からわかっている。内部監査の指摘が無視されていたわけであり、このこと自体が、組織風土の問題であると考えられなくもないが、内部監査が過小評価されていると考えることもできる。</p> <p>高い能力を持つと判断された情報源からの情報は、過大に評価される傾向があり、低い能力を持つと判断された情報源からの情報は、過小に評価される傾向があるということについて調査したアンケートを用いた実験研究がある。上記の問題のヒントになる可能性もあるので、同様の実験研究をすることを思い立った。そこで質問票を作成し、ゼミの学生を対象に配布し、データ収集を行った。データは、まだ十分に集まっていないので、継続してデータを収集していきたい。</p> <p>教育</p> <p>簿記論については、中間試験を例年通り実施した。また授業で配布するプリントの一部見直しも行った。</p> <p>管理会計論については、授業で配布するプリントの一部見直しを行った。授業時間外に、質問への対応もあった。</p> <p>ゼミについては、夏休み中に3年生のゼミ合宿を行った。合宿では、チームに分かれてビジネスゲームを行った。</p> <p>また4年生の提出したゼミ論文に目を通した。</p>	
2 その他の事項	
<p>日本会計研究学会全国大会に参加した。</p>	
3 次年度以降の計画・抱負	
<p>研究面では、重要事項のところでも述べた実験研究のデータ収集を継続して行い、結果を何らかの形でまとめられればと思っている。</p> <p>教育面では、簿記論のクラスが減ったことにより、受講者が増加すると予想されるので、それに対応した授業を進められるように検討したい。</p>	